

三宅 信一さん（みやけ しんいち）元道教育大釧路校教授。21日午後7時8分、感染症のため死去、94歳。朝鮮京城府（現韓国ソウル市）出身。自宅は釧路市千歳町10の49。葬儀は家族葬で行う。喪主は妻敏子（としこ）さん。東京文理科大（現筑波大）卒業後、53年に道学芸大釧路分校（現道教育大釧路校）の助手となり、89年に道教育大釧路校の教授を退官した。陸上自衛隊矢白別演習場（根室管内別海町など）の設置反対運動に約60年間携わるなど、長年平和運動に力を注いだ。

北海道新聞 2020年3月24日
朝刊 28面
第2社会面

矢白別反対運動 三宅信一さん死去

「平和への遺志継ぐ」

悼む関係者



三宅信一さん

習場設置の反対運動などを指導した。関係者からは三宅さんの死を悼むとともに、「思いを引き継いでいく」との声が上がった。

【別海】21日に94歳で亡くなった元道教育大釧路校教授の三宅信一さんは、長年にわたり平和運動に力を注ぎ、陸上自衛隊矢白別演

習場設置の反対運動などを指導した。関係者からは三宅さんの死を悼むとともに、「思いを引き継いでいく」との声が上がった。

で語る講義は魅力的で、学生同士が誘い合って受講していた」と振り返った。二部さんは、1960年代に国の用地買収を拒み、三宅さんらの支援で演習場内に残った故川瀬氾一さんの牧場内に住んでいる。昨年、牧場内に「矢白別平和資料館」が開館し、三宅さんが残した資料が保管されている。「学生の頃、先生と川瀬牧場に来たのがきっかけ。この場所から先生の平和への思いを次世代につ

なぎたい」と話した。別海町の元教員、吉野宣和さん(87)は「政党や労働組合の運動と並行し、地域の農民を訪ね歩いて組織していった、地に足の着いた指導者だった」と話す。「軍事的なものに地域が破壊されることへの怒りが矢白別の平和運動の原点で、その指導者が三宅さん。残念だが、遺志を引き継ぎ運動を広めていきたい」と語った。

(椎葉圭一朗)